



前号でも報告の通り、5月14日JALは各組合にLCCの立ち上げとそれに伴う労務方針変更により、解雇問題解決に向けて一歩踏み出して話し合いの場を持つと発言しました。以降、5月14日、6月12日、7月11日、8月22日、9月26日、10月4日と特別協議が行われました。乗員組合とは主にLCCでの

## 統一要求に基づく解雇争議の解決に向けて

# 支える会通信

発行責任者  
柚木康子  
大田区羽田  
4-10-4  
石井ビル3階  
TEL03(6423)7878  
FAX03(6423)7430  
メール  
sasaerukai@lemon.plala.or.jp

乗員募集を中心に地上職の嘱託雇用についても議論されています。キャビンクル ユニオン(CCC)ではLCCでは年齢上間にあわないとJAL本体での客室乗務員の経験者採用についてのやり取りが行われています。乗員組合との交渉では会社側は「採用の是非にあたっては(>JAL)関連会社からの転籍や一般公募と)差を設けることはない」と主張しています。10月9日にはJALが設立したLCC準備会社TBLのパイロットの募集要項が公表されていますが、賃金条件などの明示はありません。客室乗務員の経験者採用では一年契約更新4回まで、募集が65歳までの範囲、時給

1000円+乗務手当100円、月間8日程度勤務、年収130万円程度が出されています。また両組合は協議の都度、「解雇の決断もなければ、解雇問題は解決しない」と申し入れていますが、会社は「現在のところ解決金については考えていません」と言うスタンスを変えていません。5月以降両組合からの要請を受け、支援共闘会議呼びかけの様々な行動が中断されてきました。この間国民支援共闘会議の議論では、特別協議の場で会社が「募集・採用」議論に終始し、最後に



「採用の自由」で会社が選別する懸念が表明されています。このような懸念が現実とならないよう、また会社が引き延ばしをはかるならJALに決断を求める行動が重要となります。現在JALが解雇争議解決を早期に決断するよう、JALの会長・社長宛の要請ハガキが取組まれていますので是非ご協力ををお願いします。争議団は今も様々な取組を行っています。引き続きご支援をお願いします。(柚木)

## 連帯する夕べ開催される

8月31日大井町きゅりあんにて第40回連帯する夕べが100名で開催されました。

毎年夏に行われている働くものの連帯を確認する集会です。多くのスタッフで手づくりの料理が提供されます。

JAL争議も15名が参加し、多くが調理から参加、夕べでは清田パイロット争議団事務局長が代表して訴えを行いました。(写真上)

# 支援共闘会議を行いました！

7月の支援共闘会議の確認に基づく日本航空の会長・社長宛の「争議の早期解決に向け責任ある対応を求める要請」文を8月31日、国民支援共闘会議共同代表の糸谷全国常任幹事、津恵事務局長、

CCU前田副委員長により持參要請を行いました。要請文を手渡し、一週間以内に回答を求めました。次日の日にJALは直接会う考えはないことをCCU執行部に電話をしてきました。要請団体に返事するのが常識ですが。

2018年8月31日

日本航空株式会社  
代表取締役会長 植木 義晴 殿  
代表取締役社長 赤坂 祐二 殿

日本航空不当解雇撤回をめざす国民支援共闘会議  
共同代表 共闘  
全国労働組合連合会(全労連) 議長 小田川義和  
全国労働総合連絡協議会(全労協) 議長 金澤 勝  
全国港湾労働組合連合会(全国港湾) 委員長 糸谷欣一郎  
日本マスコミ文化情報労組会議(MIC) 議長 小林 基秀

争議の早期解決に向け責任ある対応を求めます(要請)

私ども日本航空の不当解雇撤回をめざす国民支援共闘会議は、2010年12月の発足以来、JALの解雇争議は、労働者の雇用と権利を守るだけでなく、安全運航の確保や公共性の維持等、利用者・国民にも関わる問題と受け止め、被解雇者・当該労組とともに取り組みを進めてきました。

2016年10月以降については、当該労組が提出した統一要求を全面的に支持するとともに、この要求に沿った解決をめざし、解雇争議に特化した労使交渉を開き、早期解決に踏み出すよう貴社に対し繰り返し要請をしてきました。

今年5月14日、貴社は労働組合に対して「これまでの労務方針を変更して、解雇問題の解決を進める」との回答をし、その後、5月23日、6月12日と、2回の特別協議が行われました。そして、6月19日の株主総会では、株主として出席した山口乗員争議団長の発言に対して、植木会長は「ご意見を尊重して解雇問題の解決に向けて、組合とも誠心誠意話し合う」と答弁しました。

株主総会後の7月11日の第3回の特別協議においては、何らかの動きが出るものと注目しましたが、これまで2回の交渉と同様に、当該労組が提出した4項目の統一要求に沿った職場復帰や解決金について、具体的な回答には至っていません。

赤坂社長は就任直後の経営協議会において「なるべく早く解決したいと心から思っている」と發言し、さらには、株主総会での植木会長の答弁など、解決を図るとの経営トップの決断が示されました。

私どもは現在、早期解決に向けて必要とあれば取り組みを再開する決意をもって、株主総会での会員発言などが誠実に履行されるのか、労使交渉の状況を注視しています。

つきましては、統一要求にそった早期解決を改めて求めるとともに、「どの様に解決しようとしているのか、また解決の目途についてどう考えているのか」等、解決交渉にのぞむ貴社の基本的考え方について、面談の機会を設けていただいた上、示させていただきますよう要請致します。

以上

JAL不当解雇撤回争議団  
パイロット団長 山口宏弥  
8月30日、「第五回JAL闘争を支援する徳島の会」  
総会が開かれました。  
総会では、JAL争議団の闘いの経過と現状について

の闘いの経過と現状について、これまでの御礼と、更なるご支援をお願いしてきました。翌31日は徳島市内の6労組を訪問して、これまでの御礼と、更なるご支援をお願いしてきました。翌31日は徳島市内の6労組を訪問して、これまでの御礼と、更なるご支援をお願いしてきました。徳島での2日間、スケジュールの設定など「徳島の会」幹事の河村さんには大変ご尽力をいただきました。

30日は、午前中に東京での国民支援共闘会議幹事会へ出席して、午後に徳島に飛んだことから、最新の情報をお伝えすることが出来ました。総会には、自治労徳島県本部、農協労連、徳島市交通労組、徳島バス労組、全港湾、全国一般徳島、市民病院職労など地元徳島の労働組合役員など45名の参加がありました。また、総会では徳島県労連からも挨拶があり、総会はJALの

# 各地の支える会



総会で講演する山口団長

て、私からの1時間の報告に続き、愛媛在住で客乗原告の林恵美さんと大池ひとみさんから、訴えをさせていただきました。沈まぬ太陽を全巻読みました。映画も見ました。組合の役員が酷い目に遭われたのですね。支援者から「沈まぬ太陽を見ました。組合の役員が酷い目に遭われたのですね」と聞かれることが度々ありました。また、私たちからの報告を聞いて「解決に向けて協議が始まつたことは、運動の成果ですね」とは、運動の成果ですね

「いま街頭宣伝を中止しているようですが、会社から協議の条件を付けられたのですか？それとも第三者が仲介に入っていますか？」「解決交渉には当事者の山口さんも出ているのですか？」「率直な質問も出されました。私からは「労働組合の自主的な判断で進めています」と答えると、一様に「解雇争議では聞いたことのないやり方ですね。」と感想述べ、中には「空を飛ぶ人達は違うのかなあ」などの方の反応も返っていました。

今回、徳島を訪問して、JALの165名の解雇が「物言つ労働者排除」「労働組合弱体化」にあり、労働組合共通の問題との認識が拡がっていること。そして、私たちの解雇争議は「空の安全」に直結している問題で、利用者にとっても無関心ではいられない問題であることを改めて実感しました。

愛媛・支える会通信から



スが発行されています。9月20日号に載せられた争議団の大池ひとみさんの記事を紹介します。

**【人間は一人では生きていけない】**

大池ひとみ

今年の夏は災害がたくさん発生しました。被害に遭われたすべての方々にお見舞い申し上げます。

思い返せば、2011年3月11日、東日本大震災が起きた日、私たちは東京地裁の大法廷にいました。解雇された我ら客室乗務員の初めての意見陳述の日だったのです。

あの日のことは昨日のことのように思い出すことができます。私たちのたたかいは、3・11とともに始まり、今も続いているのです。

9月初めには、北海道で地震がありました。その前々日には、台風21号が関西地方を直撃しました。その前月には、中国・四国地方が広範囲にわたつて多

西日本豪雨と名付けられた大雨は、我が家にも被害をもたらしました。あつという間に家の前の畑は湖となり、かろうじて居住部は床下浸水です。なんだもの、納屋と倉庫は水に浸かりました。この地区は、山から水を引いているので、断水はしませんでしたが、水の色はコーヒーのように茶色く濁り、いきなり停電して、野村町に行く道路も宇和町へ行く道路も土砂崩れで通行止めとなり、孤立してしまいました。

で車を飛ばしました。山の斜面が流されて、大きなコンクリートの塊が道路のすぐそばまで迫り出し、山からの水が赤土と混ざつて道路を覆い、走っていると、赤いハネが飛び散って車が泥だらけになりました。そんな車で町に行つてみると、なんだ、この平和な空気は！町の人たちは、私たちがここ数日間、大変な思いをしてきたことなんて、これっぽっちも知らず、普段通り、普通に生活していました。被災した人のことなんて、所詮、他人事なんだ！そのことを思い知られました。

に沁みました。励ましの言葉をかけてくださったお借りして、心より御礼申し上げます。

当事者にはなれないけれど、その思いは十分に伝わっていて、見ず知らずの我々に7年余の支援を続けて下さっていることは、感謝してもし足りないほどです。

世間に目を向けてみると、福島では7年以上経つと、まだ仮設住宅で暮らしている人々がいらっしゃるし、熊本地震の復興にも時間がかかりています。今年の夏の災害も然りです。この方々の苦しみを風化させてはならない。

日々の暮らしで精いっぱいい、とても他人のことなんて、と思わず、ほんの少しでいいから、寄り添つてほしい。忘れないでほしい。

今回の災害で感じたことは、「人間はひとりでは生きていけない」と

6月27日、『音威子府・旭川』  
参加者：金澤全労協議長、鈴木客乗争議団副団長  
JAL闘争を支える音威子府の会主催による学習会が18時～音威子府村勤労者会館で約40名の参加で開催。終了後、交流会。自治労の若い組合員が大勢参加くださいました。

14年にJAL闘争を支える音威子府の会を立ち上げて以来、800名弱の人口の中で5団体31名の会員を維持、拡大しています。

～参加者からの感想～  
・ユニオン組合員（元国労闘争団家族）..国鉄闘争は「解雇撤回」を勝ち取ることはできませんで、全国の皆さんから大きな支え「共闘の力」があつて解決することができました。今日のお話を聞いて、資本の身勝手な「首切り」に怒りがこみ上げてきました。皆さんには、「解雇撤回」を実現させていただきたい。地方から微力ではありますが解決までともに闘つていただきたい。  
・自治労組合員（20歳）..



学習会に参加して、日本を代表するような会社で「不当な解雇」が行われていた事を初めて知りました。安定・安心して暮らすことができると公務員を選択した私にとってJALのお話や30年前に国鉄の人がJRに不採用になつた事など、公務員だからといって安心できないし、決して他人事ではないと感じました。私も皆さんの闘いの解決まで応援していきたいと思います。

6月28日、釧路市内の労働者会館へ支援要請。18時から釧路障害学習センター「まなぼつと」にてJAL闘議を支援する釧路集会を約50名で開催。

6月29日、午前に労組団体へ支援要請。昼に標茶にて14名で集会。夕方には厚岸において15名で集会。

6月30日、矢臼別平和公園にて昼食交流会。のち別海町にて40名で学習集会。

JALが解決に動き出したと聞いてから情報が全くなく、今回やつと理解でき「などおしかりを含め多くのご意見、励ましの言葉をいただきました。頻繁に訪れることができない分、連絡を密にとりながら、勝利解決に向け尽力することを確認しました。

参加者…清田パイロット争議団事務局長、杉山客乗争議団副団長  
不�解雇と闘う日本航空労働者を支える釧路・根室の会のこ尽力により以下の行動を行いました。

6月28日、釧路市内の労働者会館へ支援要請。18時から釧路障害学習センター「まなぼつと」にてJAL闘議を支援する釧路集会を約50名で開催。

6月29日、午前に労組団体へ支援要請。昼に標茶にて14名で集会。夕方には厚岸において15名で集会。

6月30日、矢臼別平和公園にて昼食交流会。のち別海町にて40名で学習集会。

JALが解決に動き出したと聞いてから情報が全くなく、今回やつと理解でき「などおしかりを含め多くのご意見、励ましの言葉をいただきました。頻繁に訪れることができない分、連絡を密にとりながら、勝利解決に向け尽力することを確認しました。